阪神・淡路
大震災 25年

—六甲祭 学舎内出展

六甲台本館　206 教室

あの日、何があったのか

トークセッション　11月10日（日）

一震災を知る神戸大の OB・OG の方の話をもとに、
「あの日なにがあったのか」を考えます。

【ゲスト】

元学生震災救援隊メンバー・弁護士

13:00~　津久井　進さん

1993 年法卒

津久井さんは震災発生時、被災者支援のために学生救援隊のボランティア活動を始めた。阪神・淡路大震災のとき、ボランティア団体はどのように立ち上げられてどのような活動をしたのか、神戸大の視点から語る。

ニュースネット委員会初代編集長

15:00~　里田　明美さん

1996 年・自然科学研究科修了

現在、中国新聞社に勤務する里田さんは震災を機にニュースネット委員会を設立し、初代編集長として学生目線で震災報道や追悼記事を発信した。トークセッションでは地震発生直後の学内や下宿街の様子を語る。

【コーディネーター】

NHK アナウンサー

住田　功一さん

1983 年営卒

あの朝、灘区に帰省していた住田さんのリポートは同局の神戸からの第一報となった。神大生が犠牲になったことに強いショックを受けた。「お二人の話で神戸大がどう震災に向き合ったのかを探りたい」という。

写真パネル展

11月9日（土）10日（日）

崩落したＪＲ六甲道駅、倒壊した阪神高速、焼け落ちた下宿アパートなどの写真から、あのとき神戸大学や学生たちが暮らす街がどうなったのかを見つめます。



主催：神戸大学メディア研 KOBE UNIV MEDIA LAB.

後援：神戸大学学生震災救援隊、神戸大学ニュースネット委員会、神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト、神戸大学持続可能災害支援プロジェクト Konti、灘地域活動センター（N.A.C.）